

第 1 回坂井地区高校教育懇談会 議事録

- 日 時 平成 21 年 10 月 30 日 (金) 10:00~12:15
 □会 場 ハートピア春江 2 階 YURI 情報室
 □出席者 出 席 者 : 坂井市坂本市長、あわら市橋本市長、坂井市商工会笠島会長、あわら市商工会丸子会長、花咲ふくい農業協同組合前田組合長、春江農業協同組合同影専務理事、学校法人金井学園金井理事長、県連合婦人会野田理事、金津高校同窓会北出会長、丸岡高校同窓会林田会長、三国高校同窓会小田原会長、坂井農業高校同窓会古道副会長、春江工業高校同窓会棗会長、金津高校 P T A 嶋崎会長、丸岡高校 P T A 辻村副会長、三国高校 P T A 西会長、坂井農業高校 P T A 小木会長、春江工業高校 P T A 下迫前会長、金津中学校高橋校長、丸岡中学校伊藤校長、金津高校坂本校長、丸岡高校中村教頭、三国高校前田校長、坂井農業高校長谷川校長、春江工業高校西村教頭、県農業試験場大崎場長、県工業技術センター笠嶋所長 (27 名)
- 事務局 広部教育長、松田企画幹 (学校教育)、東村教育政策課長、小和田高校教育課長

○開 会

教育政策課長 それでは定刻でございますので、ただ今から、「坂井地区高校教育懇談会」を開催いたします。皆様方には、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは最初に、開会に当たりまして、広部教育長から御挨拶を申し上げます。

○教育長あいさつ

広部教育長 今日は皆様、大変お忙しいところを御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

この懇談会は、10月8日に開催を予定しておりましたが、台風が接近したため、延期をさせていただきました。再度日程の調整をいただきまして、誠にありがとうございます。

御承知のように、政権が変わりまして、教育におきましては、高校授業料の無償化であるとか、3年間行ってきた全国学力テストを抽出調査にする動き、これはもう固まったようでございますが、それから教員の資格の取得、これを今までの4年間から6年間にする動きであるとか、いろんな改革といいますが、マニフェストに沿った動きが話題を呼んでおります。今、私どもも、情報収集に努めているところでございます。

今日は、高校の再編問題ということで、各界各層の皆様方に、いろいろ御報告を申し上げて、御意見や考え方をお伺いしようということで、お集まりをいただきました。

昨年のちょうど今頃でございますが、高等学校教育問題協議会、いわゆる「高問協」から答申を受けまして、これまで、これから高校へ入る子どもたちや高校生が、より良い環境でより良い高校教育を受けてもらうにはどうしたらいいかということを議論してまいりました。

そういったことで、私どもは、今年の3月に再編整備計画を定めました。特に奥越地区については、非常に生徒数の落込みが激しいものですから、実施計画を策定し、実施に向けていろんな作業を進めております。

高校生の数がピークを迎えましたのは平成元年頃でございます。昨年生まれた

子どもたちが高校へ入る平成35年には生徒数の減少が激しく、ピーク時の半数くらいになってしまうというデータが既に出ております。特に奥越地区、若狭地区が激しいわけですが、福井・坂井地区につきましては、平成30年頃までは緩やかな増減を繰り返しますが、平成30年を境にしまして急激に落ち込んでいくといった人口動態になっているわけですが。

先般、若狭地区におきましても、各界各層の皆さんにお集まりいただきまして、いろいろ議論をしていただきました。特に若狭地区については、小浜水産高等学校において、非常に生徒数が減っております。この取扱いというのが大きな課題になっており、いろんな考え方、御意見等を伺ったところでございます。

今後、私どもは、総合産業高校、これは全国的な傾向でもございますが、そうした形を進めていきたいということもありまして、坂井地区につきましても、高問協に沿った案を後ほど御説明させていただきまして、いろいろ御意見をお伺いしたいということでございます。

今日は高等学校の校長が集まっております、後ほどまた学校の現状等も説明をさせていただきますが、今日は、両市長さんをはじめ、各界各層の代表の方にお集まりいただいておりますので、忌憚のない御意見、考え方をお寄せいただければと思います。私どもも、今日の御意見等を伺いまして、特に、坂井地区の高等学校をこれからどうしたらよいか、検討を進めてまいります。

また、最近、県内全ての地区において、福井市へのトップ層の生徒の流出が少し進んでおり、非常に大きな課題となっておりますので、普通高校のレベルアップ、底上げ、こういったことも含めて、これから議論をしていきたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

○出席者紹介

教育政策課長

それでは、本日の御出席の皆様を御紹介いたします。

県農業試験場長の大崎様です

県工業技術センター所長の笠嶋様です。

坂井地区中学校校長会長の長谷川様の代理で、丸岡中学校校長の伊藤様です。

金津中学校校長の高橋様です。

春江工業高校PTA会長庄納様の代理で、前会長の下迫様です。

坂井農業高校PTA会長の小木様です。

三国高校PTA会長の西様です。

丸岡高校PTA会長倉田様の代理で、副会長の辻村様です。

金津高校PTA会長の嶋崎様です。

連合婦人会理事の野田様です。

あわら市商工会会長の丸子様です。

坂井市商工会会長の笠島様です。

坂本坂井市長でございます。

橋本あわら市長でございます。

花咲ふくい農業協同組合長の前田様です。

春江農業協同組合長小林様の代理で、専務理事の国影様です。

学校法人金井学園理事長の金井様です。

金津高校同窓会会長の北出様です。

丸岡高校同窓会会長の林田様です。

三国高校同窓会会長の小田原様です。

坂井農業高校同窓会副会長の古道様です。

春江工業高校同窓会会長の棗様です。

金津高校校長の坂本様です。

丸岡高校校長吉村様の代理で、同校教頭の中村様です。
三国高校校長の前田様です。
坂井農業高校校長の長谷川様です。
春江工業高校校長の荒川様の代理で、同校教頭の西村様です。

次に、事務局の紹介をさせていただきます。
学校教育担当企画幹 松田でございます。
高校教育課長 小和田でございます。
教育政策課長 東村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議 事

教育政策課長

それでは、議事に移らせていただきます。まず、資料の確認をさせていただきます。次第、会場配置図、出席者名簿、資料1「坂井地区の県立高校の現況等について」、資料2「県立高等学校再編整備計画」、資料3「平成22年3月中学校卒業予定者の進路志望調査結果」、坂井地区の各県立高校に関する資料がお手元にあると思います。

では協議を始めさせていただきます。最初に、県立高校再編整備のこれまでの経緯、坂井地区の県立高校の現況等について、事務局から説明いたします。

高校教育課長

それでは、説明させていただきます。

資料1、1ページを御覧ください。これまでの経緯について御説明申し上げます。平成19年12月から20年9月にかけて、計8回、高等学校教育問題協議会を開催させていただきました。その後、20年10月に高問協から答申が出されております。

答申の柱は3本ございまして、1つ目が「職業系専門学科の在り方」、2つ目が「定時制・通信制課程の在り方」、3つ目が「学校規模・配置の在り方」でございます。職業系専門学科の在り方につきましては3点ございまして、特定の専門分野に特化した拠点校の設置、幅広い専門分野を学べる総合産業高校の設置、ものづくり・食育など本県の特徴を生かした新しい学科の設置でございます。定時制・通信制課程につきましては、昼間二部制の見直し、単位制・2学期制の導入、教育相談体制などの充実でございます。学校規模・配置の在り方につきましては、「1学級当たりの望ましい生徒数を36人程度とし、1学年当たりの望ましい学級数を4～8学級程度」としたところでございます。また、「少なくとも、5～6学級を確保する」ということも述べられております。

これを受けまして、同じく20年10月に「新しい県立高校の在り方検討会」が設置されました。そして、21年2月13日に「県立高等学校再編整備計画案」が公表されました。その中に、再編整備の基本方針が述べられておりますが、第2次実施計画といたしまして、福井・坂井地区、嶺南地区の全日制高校の再編があげられております。案の公表後、2月20日から3月6日にかけて、計画案についてのパブリックコメントを実施し、95名の方からの応募をいただきました。第898回教育委員会で、パブリックコメント結果についての報告、協議がなされました。そして3月30日の第899回教育委員会におきまして、「県立高等学校再編整備計画」が決定された次第でございます。

資料2を御覧ください。県立高等学校再編整備計画でございます。

1ページに再編整備の必要性が述べられております。進学率が98.5%と非常に高い進学率になっている点、不登校経験のある生徒や様々な課題を抱える生徒が近年増えてきているという点、中学校の卒業生数が平成元年3月の13,483名をピークとし減少し続け、平成34年には7,208名となり、ピーク時

の約半数まで減少することが見込まれているという点が述べられております。ちなみに、福井・坂井地区につきましては、平成元年が6,669名、平成34年が3,683名になっております。このような状況の下でも、生徒がより良い環境で、より充実した高校生活を送ることができる教育環境を提供するために、早急に対策に取り組まなければならないということが述べられております。

2ページを御覧ください。適正な学校規模・配置については、1学級当たりの生徒数は、普通科は36名程度、その他の学科は30～35名程度を基本とする。1学年当たりの学級数は4～8クラスを基本とするが、可能な限り5学級以上を確保すること。そして、職業系専門学科の再編整備につきましては、拠点校となる専門高校の配置と、総合産業高校の設置が述べられております。

4～5ページを御覧ください。各職業系専門学科の在り方としまして、農業科、工業科、商業科、家庭科の今後の方針が述べられております。

6ページを御覧ください。定時制・通信制課程の見直しということで、昼間二部制の見直し、夜間制から昼間制への移行、そして単位制の実施などが述べられております。

8～9ページを御覧ください。再編整備の進め方等が書いてあります。9ページに再編整備の実施があり、第2次実施計画中で福井・坂井地区の全日制高校の再編が述べられております。

14～15ページには定時制・通信制課程のことが述べられており、坂井地区においては、丸岡高校城東分校の在り方が述べられております。

それでは、資料1にお戻りください。

2ページを御覧ください。坂井地区の中学校卒業生数の推移でございます。一番左側に、平成9年3月卒業生数を記載しております。平成9年度に坂井農業高校の学科改編を実施いたしまして、それ以降の現在の体制を維持しております。現在の体制の最初の年ということで、平成9年度をひとつの基準にということで記載しております。坂井地区における平成9年3月の中学校卒業生数は1,427名でございます。21年3月の数は1,335名、平成9年度と比較すると92名減少しており、割合としては6.4%減少しているということでございます。一番右側の「参考」でございますけれども、卒業生数がピークであった平成元年3月の数が入っており、このときには1,806名でございました。この1,806名に対しまして、平成35年3月には1,105名となり、38.8%の減となるというふうに御覧ください。なお、35年3月卒業生予定者数と申しますのは、平成20年に生まれた子どもの数でございます。

3ページを御覧ください。県立高校の定員数の推移でございます。金津高校のところで御説明させていただきます。平成9年には、普通科が定員160名、経理科40名、情報処理科40名、計240名でした。これが平成21年では、普通科が188名、経理科38名、情報処理科38名、計264名になったということでございます。なお、一番右側の「参考」は、平成22年度の入試の定員数と、今年の9月の志望者数でございます。来年度の入試の定員が198名、今年9月の志望者数が252名となっております。坂井地区全体のところを見ますと、平成9年の定員の総計は1,040名、平成21年が912名、平成22年が960名となっております。なお、平成22年度の定員数が21年度より増えているのは、坂井地区全体で中学校3年生の数が増えていることを考慮したためでございます。

4ページを御覧ください。各中学校からの高校への進学状況でございます。上段の表を説明させていただきます。平成21年度では、あわら市、坂井市合わせまして、福井市内の県立高校に、全日制に225名、定時制・通信制には8名、計233名の中学生が進学しております。また、福井市内の私立高校には、全日

制に182名、定時制に18名、計200名進学しております。合計いたしますと、433名の中学生が福井市内へ進学したということでございます。下の表につきましては、金津高校ですと、平成21年度にあわら市の子どもが113名、坂井市が140名、その他が9名進学しております。三国高校ですと、あわら市43名、坂井市172名、その他が16名、計231名進学されているということでございます。

5～8ページを御覧ください。各学校の卒業者の進路状況でございます。5ページの金津高校普通科で説明させていただきます。まず進路志望状況ですが、進路志望調査による志望者が237名、入学定員が188名、入学者が188名でした。また、その年の3月の卒業生数は187名でした。この187名のうち、186名が進学、1名就職しております。進学した186名がどういうところに進学したかといいますと、県内の大学には66名、県外には70名、短大には県内14、県外2、専修学校等には県内20、県外14となっております。就職につきましては、地区別では県内、業種別では公務員でした。このような形で、各学校の入学者、卒業生、進路先を御覧いただきたいと思っております。

9ページを御覧ください。平成18年10月現在の県内事業所・従業者数調でございます。7番目にあわら市、9番目に坂井市が記載されております。両市ともに製造業が多く、事業所数はあわら市199、坂井市824、従業員数は、あわら市3,782、坂井市11,454となっております。職種としましては、製造業、卸売・小売業、飲食・宿泊業、サービス業が多く、子どもたちも、このような職種に就いていると考えられます。

説明につきましては以上でございます。

広部教育長 それでは、説明は一段落しまして、資料の表、データについて、御質問があればいただきたいと思っております。

林田会長 資料1の9ページの県内事業所・従業者数調についてですが、これは、高校・大学卒を問わずにいる従業者数の数ですか。

高校教育課長 左様です。

国影専務理事 資料1の1ページに、職業系専門学科の在り方について3項目書かれておりますが、もう少し具体的な考え方というのはないのでしょうか。

教育政策課長 資料2の4ページを御覧いただきたいと思っております。各職業系専門学科の在り方の記載がありますが、これは高問協の答申を経て、高校再編整備計画として取りまとめたものでございます。例えば、農業科であれば、現在農業系専門学科を設置している3校のうち、1校は農業教育のセンター的役割を果たす拠点校として専門教育の充実を図り、他校については、近隣の職業系専門学科を持つ高校との統合による総合産業高校として再編する方向で検討するというところでございます。これは農業科、工業科、商業科それぞれ1校あるいは数校については拠点校、他については総合産業高校にする方向で検討するということです。総合産業高校というのはイメージしづらいかと思っておりますので、2ページの「総合産業高校の設置」というところを御覧ください。既存の職業系専門学科を持つ県立高校の再編統合により、複数の異なる職業系専門学科を併設する総合産業高校を設置するというところであります。その内容は、3ページの総合選択制というところに記載してありますとおり、生徒は農業、工業、商業などという学科を選択して入学するのですが、選択科目の幅を広げて、専門科目以外の選択教科・科目や普通教科も

設けることにより、他学科との科目を履修できるようにして、幅広く将来の進路を選択できるようにしていきたいということです。

教育政策課長

それでは、次に資料3について説明いたします。

先日発表した9月1日現在の進路志望調査結果です。7ページを御覧いただきますと、高校ごとに志望者がどれだけいるかという数字が出ております。

合わせまして、資料1の3ページを御覧いただきたいと思っております。一番右端に、坂井地区の高校の状況を抜き出して書いております。金津高校で申し上げますと、普通科は志望者数が252人、経理および情報処理科につきましては106人。また、この志望調査の後に発表された来年度の入学定員が書いてあります。金津高校全体で274人の定員に対して志望者は358人という状況です。三国高校につきましては、普通科の定員数が216人、志望者数が206人、家政科が定員数38人、志望者数58人。丸岡高校については、定員数195人、志望者数173人。坂井農業高校については、定員数93人、志望者数54人。春江工業高校については、定員数144人、志望者数156人。以上が来年度の定員数と9月1日現在でとりまとめた志望者数でございます。

続きまして、坂井地区の県立高校の校長先生方に、それぞれの高校の現状と課題について御説明いただきたいと思っております。金津高校の坂本校長先生から順にお願いします。

坂本校長

金津高校です。本校の校訓は「親・真・信」、学校教育目標は、「確かな学力の確立と課題解決力の育成」、「厳しさの中にぬくもりのある生徒指導」、「自己実現に向けた丁寧な進路指導」、「健全な心身と豊かな人間性の育成」、「家庭・地域と連携した特色ある学校づくり」、この5つを設けまして、教職員一同、一丸となって日々取り組んでおります。

この学校教育目標を具現化するための特色ある教育活動を御説明します。1番目は、「進路指導・適性に対応した学習指導」です。少人数教育など、色々きめ細やかに行っています。2番目は「IPT活動」、いわゆる総合的な学習の時間です。生徒に色々な課題を持たせて、ディスカッションやディベート、テーマ別研究などをやっております。3番目は「朝読書」、これは6年間行っております。校時で8時30分から40分は朝読書と決まっており、毎日続けております。本年度、6年間の成果が認められまして、文部科学省から読書活動の優良賞をいただきました。4番目は、創立以来行っている「茶華道体験」。新学習指導要領でも、伝統文化を大事にすることをうたっておりますが、本校では、男子も全員1回は経験するというので、ロングホームなどの中で、1年次に華道、2年次に茶道を行っております。また「中高一貫教育」、一期生が2年生におりますが、芦原中学校さん、金津中学校さんと行っております。そして昨年、魯迅中学と提携を結びまして、今年12月に、芦原中学校と一緒に、魯迅中学との交流を行います。昨日、あわら市にお世話いただいて最初の会合を持ちました。こういった特色ある活動を行っております。

そして教育課程ですが、普通科では、毎日7時間、5日間で35単位の授業をやっております。進学希望に応えられるように頑張っております。土曜日にも、土曜講座というのを設けておりまして、1、2年は年間10回、それに加えて校内模試などを土曜日に行っております。3年生は模擬試験が10数回あり、その他年間2回ほど土曜講座を行っております。それから経理科と情報処理科の商業科では、資格取得を目指して頑張っております。商業科につきましては、普通科と同様に7時間までの授業を3日間、後の2日間には7限目はありませんが、資格取得のために生徒の補習などを行っております。また、普通科が土曜講座をや

っておりますが、商業科の生徒につきましても、資格取得の前には土曜日に特訓をやっております。それが功を奏しまして、本校は大変高い資格の取得率を誇っております。3つ以上の資格を取得した生徒たちは77%おります。

進路状況について説明いたします。普通科については、ほとんどの生徒が国公立大学を希望しており、商業科についてもほとんど進学を希望しております。今年度の就職については、非常に厳しい中ではありますが、今のところ、就職内定率はほぼ100%です。同窓会長をはじめ先輩方が非常に頑張ってくれており、企業の皆さんにも、不景気の中ではあるが金津高校の生徒さんなら是非採りたいとおっしゃっていただいています。

資料のキャンパスカレンダーに、色々な学校行事が記載されています。私も金津高校に来る前は、勉強ばかりやっている学校かなと思いましたが、学校行事や課外活動に大変熱心に行っています。また部活動でも頑張っております。以上です。

中村教頭

丸岡高校です。よろしくお願ひします。スクールガイドを御覧ください。

丸岡高校には、特に地元の生徒が多いと思います。全日制の生徒が544名おりまして、地元中学校の卒業者は354人おります。率にして65.1%という大変高い割合で、例年このような割合になっております。大変おとなしく素朴な生徒が多くて、大きな問題はない学校だと認識しております。

教育目標は、「文武両道の達成を目指す生徒の育成」です。この「文武両道」という言葉は、生徒も大変よく使います。この間、中学校に高校の説明に行きました。そのときに生徒を連れて行きましたけれども、大変親しんでこの言葉を使っております。

「文」の方の学習面につきましては、基礎学力を付けることや、家庭学習をきちんとさせるということに努めております。そういう中で、個に合った教育を行っています。資料の2枚目の「教育課程」というところを御覧ください。1年生については、Iコース、IIコースというのを作っておりまして、Iコースは国公立大学の方を目指すコース、IIコースは私立大学や短期大学、専門学校、就職なども含めたようなコースになっております。2年からは、それをさらに文・理で4分割して、幅広い生徒に対応できる教育に努めております。

「武」の方につきましては、特に強化部として、サッカー、剣道、新体操がございまして。その他にも運動系で13の部があり、文化系では12の部がございまして。特に部活動を通して、人間性の向上や、さらに進路意識の向上というものを併せて教育する形でやっております。

その他、公開授業を年3回実施しております。それから授業の工夫を行ったり、習熟度別学習の授業を行ったりしています。「文」と「武」がバランスのとれた形になるような教育を行っています。

こうした中、実際に不登校や欠点科目を持つような生徒は年々少なくなっております。最初に申し上げましたとおり、生徒は素朴で、大きな問題はない地元の学校だという感じになっております。

課題といたしましては、4点ほどあるかなと思っております。1点目は、幅広い生徒が入ってきており、それらの生徒に対して、それなりの実力を付けて、きちんと希望の進路実現をさせるような教育を一層やっていくことです。

2点目は、「文武両道」という言葉を申しましたが、現実としましては、どうしても「武」の方が強くなっており、少し「文」の方を強めて、なんとか五分五分の形にできないかなということです。そのためには、進路意識を更に高揚させることや、いろんな方策をとっていく必要があると思っております。

3点目は、交通が少し不便なところにあるということです。今年、坂井市にコ

コミュニティバスの時間などを調整していただきまして、多少便利になりましたが、少し交通が不便だというところがございます。

4点目といたしましては、定員の問題があるかなと思います。実際に、希望者につきましては、定員よりも少なくなっております。これは上位の生徒が福井市に流れるということがあるかと思えますし、その次の層が金津高校の方に流れるということがあるかもしれません。それで、いかに丸岡高校が、地元の学校としてアピールできるかということが大切かと思っております。少し「文武両道」の「文」の方の信頼を得ることが課題だと思っております。

前田校長

よろしく申し上げます。本校は、明治42年に創立し、昨年100周年を迎えました。旧制の高等女学校、三国中学校の流れをくむ伝統を持っております。過去、本校には、定時制、商業科、川西分校がありました。それらはなくなっています。現在は、普通科が5クラス、家政科が1クラスで、生徒数は約680名です。出身中学校ですが、地元の三国中学校が約半分、そして芦原、坂井、春江、こういったところが10%を超えております。金津中学校は5%くらいです。三国中そのものから約半数の生徒が来て、本校の半数くらいに当たっているという状況であります。本校は、1学年6クラスという中規模校ですので、生徒一人ひとりに目が行き届くと思っております。また、地域の方々の協力が非常に大きく、保護者あるいは同窓生の皆様の大きな期待を受けております。

普通科について説明申し上げます。生徒の卒業後の進路は、国公立大学から専門学校まで、非常に幅広く進学をしております。これに対応するために、文系・理系それぞれに2つのコースを設けております。文系・理系それぞれに、国公立を目指すIコース、それ以外のIIコース、2コースを分けて対応をしております。またIコースにおいては、8時からの朝学習を行って、生徒の進路実現を支援しております。具体的な生徒の進路先は、幅はありますが、4年制大学に100名、短大には40名、専門学校も40名、就職には30名程度ということになります。大体北陸3県を中心とした大学等に進学していますが、最近では都会の方へも多く出て行くようになりました。就職の場合は、ほとんど県内の企業が多いと思われれます。ただ、今年の就職状況は非常に悪くて、現在、30名のうち8名ほどが決まっております。今2度目の受験をしております。

続いて家政科について説明申し上げます。家政科は、衣・食・福祉・保育・コンピュータといった生活に直結する内容の教科を中心にやっております。3年間で合計43単位の専門教科を学習します。平成6年以降、志望者数が定員を超えているという状況です。大変高い意志を持って本校の家政科に入ってきていることが言えます。部活動ですが、運動部で14種、文化部で13種を擁しており、参加率は80%を超えております。今年は、陸上部、柔道部、女子ソフトボール部、ヨット部が北信越大会に出場しております。また、文化部では、かるた部が福井県の代表チームになっております。このように活躍しております。

課題を2点挙げさせていただきます。1点目は、生徒は厳しい入試を経験していません。大体1.00倍の競争率です。従って、生徒は自主的に勉強するという姿勢に欠けているように思います。与えられたことはなんとかこなすのですが、それ以上に独自の学習に励むということが弱いように思います。もう1点は、先ほど教育長さんがあいさつの中で触れられましたが、福井市への流出が非常に多いことです。特に学力の到達度の高い生徒が、毎年30名近く福井市へ流出している。このため、幅広い生徒が増えていて、生徒への対応の工夫が必要になっております。以上です。

長谷川校長

よろしく申し上げます。坂井農業高校は、今年で91年目を迎える学校でござ

います。福井の農業の地、坂井地区にある農業単独校です。本校においては、生産技術科、食品科、環境システム科の3つの専門学科を持っております。各学科1クラスという構成でございます。

各学科とも、それぞれ特色を持っておりまして、生産技術科ですと、やはり植物の生産、動物の飼育というところに力を入れてやっております、2年生からは農業コース、園芸コースという形で分かれて、より専門的な学習を進めるという取り組みをしています。それから食品科においても、2年生から加工コースと流通コースという形でコース分けをいたします。それぞれ特色を持たせまして、食品の製造や加工をメインにする加工コース、そして流通・販売の学習をメインにする流通コースという2コースを設定しております。そして環境システム科、こちらの方は土木系の学習を進めており、こちらも2年生から環境システムコース、環境デザインコースという形で専門性を深めるコースを設定しております。それから、2年生から、進学を希望する生徒を中心に教養コースというコースも設けてございます。

各学科の特色を申し上げます。生産技術科ですと、食物生産に携わる学科ということで取り組んでおりますし、加工コースはやはり食の加工・製造、建設システムコースにつきましては、小型建設車両の操作免許を取れるということで、それぞれ特色を持たせてやっております。

本校は3学科、3学年、各学年3クラスございまして、245名の生徒が学習をしております。また、学校から15分くらいのところに、山室農場という約6haの農場を持っておりまして、1年生も2年生も、終日実習ということで年間2回通っております。ここで、働くことや作業する力を付けているということがひとつの特色として挙げられると思います。

また、農業高校でございますので、地域との連携、地域の中での学校ということに力を入れております。地域の皆様方への販売ということに力を入れておりまして、地域の祭りなどにも出向かせていただき、これが生徒のひとつの意欲向上にもつながっております。自分たちで作ったものが買っていただける、地域の方との交流も深められる。また、近隣に小学校、幼稚園がございますので、そちらとの交流も行っております。小さい頃から食というものに気を付けていただくということで、本校の生徒が先生代わりになりまして、子どもたちと一緒に、生産や加工などに取り組んでおります。また、本校の場合、「エコロジカル・アグリハイスクール」ということで、環境を重視した教育を行っております。県からも特別栽培認証を受け、無農薬、減農薬などの栽培をしまして、生徒の意識付けをしながら取り組んでおります。さらに、対外的な活動におきましても、日本学校農業クラブというのがございますけれども、本校も参加をしております。今年度2人の生徒が優秀賞を得ております。このような全国的な活動にも取り組んでおります。

本校の課題と申しますと、他の学校でも同様でございますけれども、非常に幅広い、多様な生徒さんが入学しておりますので、その対応のため教員をあげて委員会を設けたり、生産に携わるところから意識付け、意欲付けにつなげていくなど、努力しております。また、農業高校でございますので、やはり専門高校としての進路についても確立していかなければいけないかなと思います。専門的な就職、進学という面でも力を入れていきたいと思っております。以上です。

西村教頭

それでは説明させていただきます。本校は1963年に開校し、3年後の2012年には創立50周年を迎える予定です。工業系の専門高校であり、現在は、情報システム科、機械科、自動車科、電気科の4つの学科を設置しています。各学科1クラス編成で、1学年4クラス、全校で12クラスです。現在、男子36

8名、女子13名、合計380名が在籍しています。生徒の80%以上が坂井地区内の中学校出身で、その他は福井市内の中学校出身です。

教育課程につきましては、30単位で行い、2年次以降で専門学科の履修が多くなってきます。一般教科は、少人数指導や習熟度別指導によるきめ細かな授業、専門学科は実習を主体とした体験学習を実施して、工業の基礎的な知識と技術の習得を目指しています。資格取得に関しましては、機械製図検定、危険物取扱者乙種、自動車整備士3級、第2種電気工事士など、授業だけでなく放課後等の課外指導も行い、個人の能力に応じて取得しています。

部活動は、運動部が10、文化部が7あり、どの部も熱心に活動しています。特に運動部では、自転車競技は、毎年、インターハイ・国体で上位に入賞しています。また、サッカー部も、10日に行われた選手権大会の決勝で丸岡高校に敗れましたが、32年ぶりに決勝進出ということもあり、新聞紙上を賑わしてくれました。文化部については、4つの学科がそれぞれの部を設置しており、高校生ロボット競技やソーラーラジコンカーコンテストの全国大会で毎年上位に入賞しています。特に、平成13年と17年には全国優勝を果たしております。

進路状況につきましては、約6割が就職、4割が工学部系の大学やトヨタ・日産などの自動車関係の専修学校、あるいは短大に進学しています。特に就職に関しましては、約8割が坂井地区内の企業に就職しており、嶺北北部の工業界を担う人材として活躍しています。

また、本校は、「ものづくりは人づくり」をモットーに、地域に必要とされる学校づくりを目指しております。子ども用の電動自動車、ホバークラフト、ラジコンによるシミュレートヘリなどを作っており、毎年、エンゼルランドやサンドーム、地域のイベントで、本校の生徒が作った自動車に子どもたちを乗せて楽しませております。また、ワイヤークラフトなども保護者や子どもたちから大変好評を得ています。

最後に本校の課題について申し上げます。ものづくりや部活動に興味関心を持って入学してくる生徒は多いのですが、生徒の基礎学力が十分でないために、国家資格や各種検定に挑戦する生徒が減り、合格者数も少なくなっています。もう1点は、雇用状況の悪化のため、特に今年度は生徒の就職先の確保が困難な状況にあることです。昨日までに就職希望者69名のうち60名、率にして約90%が内定していますが、未定者に対しては、全職員一丸となって内定を得るよう取り組んでいます。以上です。

広部教育長

以上、坂井地区の県立高校の概略を説明させていただきました。それぞれの高校にはいろんな悩みがございます。特に、私どもが一番大きく捉えておりますのは、普通科の高校のことです。これは坂井地区だけではなく、実施計画を進めている奥越の大野・勝山高校にしてもそうですが、上位の生徒が福井の方へ流れています。もう最近では、敦賀市からも、福井や武生の方へ流れておりまして、非常に大きな課題として捉えております。今日はこれ以上触れませんが、要は、各高校がそれぞれ努力して魅力ある素晴らしい高校にする、そのような力を付けるのが一番課題かなと思います。私どもなりに、これから対策を進めてまいりたいと思います。

また、高問協でも大きく取り上げられましたのは、今後、職業系高校をどのようにして組み立てていくか、再編していくかということです。農業、工業、商業系などがございますが、特に県内の産業界から大きく指摘され続けておりますのは、就職しても、学校で学んだことが間に合わないということです。高校での授業内容、教育内容が間違っているのではないかという御意見を産業界からもいただいておりますので、この際、その辺も是正をしていきたいと思っております。

それからもう1つ現実的な課題は、学科と就職のミスマッチです。農業を例にとれば、入ってくる生徒が、専業農家になるために農業を学ぶということがどれだけあるのか。就職状況を見ましても、最近では、農業高校に入って農業系統の職に就くという生徒はおりません。現実的に大きな課題として捉える必要があります。先般懇談会を開催した若狭地区も同様です。同じようなことが職業系全ての高等学校に言えるわけです。これをどうしようかということが、非常に大きな課題です。

資料2をもう一度御覧いただきたいと思います。「県立高等学校再編整備計画」ですが、これは高問協の答申を踏まえて、教育委員会で具体的な計画として今年3月に策定したものです。2ページを御覧いただきたいと思います。再編整備の基本的な方針です。職業系専門学科の再編整備をどうしたらいいかということが記載してあります。ひとつ打ち出しておりますのは、総合産業高校を設置です。いろんな職業系の高等学校を合わせて、総合産業高校という形にしたいということです。この学校では、3ページに書いてありますように、1年生の間には、いろんなことを勉強してもらって、自分の将来の進路をゆっくり考えていただいて、2年生以降に、電気の勉強をやってみたい、商業の方をやってみたいなど色々考え、学校の先生とも相談して、進路を決めてもらう。総合選択制を導入して、総合産業高校としてまとめるということです。

奥越地区では、大野東高校と勝山南高校、この2つを大野東高校の方に合併しまして、2つの学校の機能を持たせて、さらに充実させていくといったことで、地域の御理解もいただいて進めております。どういった学科にするか、校舎をどのように整備していくかなど、検討を個別に進めております。

4ページを御覧ください。各職業系専門学科をどのように整備していくのか、基本方針を記載しています。現在、県内に農業科は、福井農林高校、坂井農業高校、若狭東高校の3校があります。どうしても農業を勉強したいという生徒のために、このうちの1校を拠点校として整備していきたいと考えております。その他の高等学校については、総合産業高校への再編統合を検討するという事です。

工業科については、科学技術高校、春江工業高校、大野東高校、武生工業高校、敦賀工業高校、若狭東高校の6校がございます。これにつきましても、工業の拠点校を選定し、整備して、専門的知識・技能を深めたいという子どもについては、そこへ行って学んでいただく。他の高校については、総合産業高校で、自由な雰囲気の中で勉強してもらおうということです。

商業科については、福井商業高校、武生商業高校、金津高校商業科、それから勝山南高校商業科、ここは大野東高校と統合し総合産業高校として整備します。それから敦賀高校商業科、若狭高校商業科の6校あります。これにつきましても同じように、1校は商業の拠点校を整備していきたいということ、その他の商業科につきましては、総合産業高校として充実していきたいということです。

5ページを御覧ください。家庭科、家政科についてですが、三国高校家政科、勝山南高校家政科、美方高校家政科と3校あります。これにつきましても、最近志望する生徒が減ってきております。今後、置くことが必要であるかも含めて検討して、総合産業高校の設置を考える中で、子どもたちのニーズに合った学科に再編をしていきたいと考えております。

それから福祉科ですが、大野東高校にございます。最近、福祉科のニーズは高まっておりますので、今後福井地区などについてどうするかという話は出てくるかもしれませんが、そのまま、存続、充実をしていきたいということでございます。こういった高問協で定められた基本方針があります。

職業系高校の再編は、全国的な流れでございます。高等学校の再編整備をやっ

ていないのは、福井県と滋賀県の2県だけでありまして、現在は、2県とも既に着手をしたところでもあります。

坂井地区に当てはめると、農業系の坂井農業高校、工業系の春江工業高校、三国高校の家政科、金津高校の商業科、これらをどのようにして整備していくかということになります。坂井農業高校にしても、春江工業高校にしても、はっきり申し上げて、今のままでは駄目でございます。どんどん生徒数が減っていきまじ、産業界のニーズとのミスマッチを生じている。私は、職業系の教育は今のままでは駄目だと認識しております。これは私どもの責任でもございます。教育の中身の充実は非常に大切でございますので、今後どのようにしていくかということ、これが今の坂井地区の大きな課題となります。私どもも、各界各層の皆さんの御意見、考え方を踏まえながら、できれば年度末くらいまでに、坂井地区をどのようにして再編整備していくか、実施計画としてまとめていきたいと考えております。

色々、他の地区もそうでございますが、最初は、自分に関係のある学校だから是非残してくれといった御意見はございます。ただ、現実をみると、こうしないと生き残れないと、こうしないと地区のためにならないということもあります。高等学校は地域の文化でもありますので、この辺りを十分に御議論いただけたらと思います。

それでは、春江工業高校の同窓会長さんから、順番に御意見をいただきたいと思ひます。

棗 会長

私自身、春江工業高校の第1回目の卒業生です。最初は名古屋で就職しまして、それから帰って来て、電気関係の会社に勤めました。それから脱サラして、現在、私を含めて従業員7人で、電気の工事をしてしています。

これから高校の無料化など、国の方針が変わってくると親の負担も少なくなりますので、地区ごとに学校がなくてもいいような気がします。また特に思うのは、卒業した生徒の能力低下のことです。とにかく今の世の中は、工業系は資格が必要なのです。何にせよ、試験を受けていかなければ駄目なのです。ところが試験を受けさせると、これで高校の3年間勉強してきた生徒なのかと思うことがあります。

確かに、工業高校の実習で得ることは大きいのですが、再編に当たっては、もっと基礎学習をやって、将来的には、高校を5年ぐらいの期間で見ていった方がよいと思ひます。

基礎学習を2～3年やって、その後本当に工業系の学習をしたいのなら専門の学習を2年ほど行う方がよいと思ひます。

古道副会長

私も坂井農業高校の卒業生です。当時は、中学校を卒業した長男は、10人中8、9人までは、農業高校に進むように言われた、あるいは自分から進んでいったという状況でした。坂井農業高校は地元に着した高校でして、坂井郡内に残って市役所や農協、あるいは自営などで活躍されている方が多かったわけです。

現状は、農業の環境が非常に変わってまいりまして、コシヒカリ1俵の価格も10数年前と比べると今は大分落ち込んでいます。従来の経営規模では到底やっていけず、これでは後継者は当然できない。これは高校の教育や農家が悪いのではなく、政治に配慮が足りなかったのではないかと思っています。

坂井農業高校を取り巻く現在の環境は大変厳しく、卒業されても、農業関係に就職されている方は非常に少ない。私は、10数年前に高問協委員を拝命したことがございます。そのときから既にこうした流れが出ていたようで、現状は残念ながらどうしようもないところまで来ている。しかし、これから政権が変わり、

農業がどう見直されるか、期待は一部あります。こうした現状においても、農業教育というのは大事な部分もあります。現状では3年間では専門教育は無理ではないかと思えます。そういう制度の見直しも含めて専門高校を考え直していただきたいと思えます。

小田原会長

昨年の10月に創立100周年記念事業を実施したわけですが、同窓会が中心になって準備委員会、実行委員会を立ち上げるなど、準備に7年間かかりました。一番頼れるのは同窓会の力です。生徒会館の改修を行ったわけですが、耐震も含めて工事をしまして、殆どのお金をこの生徒会館につぎ込んだわけです。

三国高校には、家政科と普通科があるのですが、過去に川西分校が廃校になりまして、定時制課程、商業科も廃止され、同窓会としては、科がなくなることによって、組織の力が大きく減退する状況になっております。今、坂井地区の3校を統廃合するという計画があるようですが、三国高校としては、受入体制は十分整っております。家政科を三国高校から他校に持っていくことは絶対に反対をしたいと思います。

林田会長

質問をさせていただきます。拠点校と総合産業高校の設置と2つありますが、これらの学校を具体的にどのように作るのか、お聞かせください。

教育政策課長

職業系高校の中で、最低1校は拠点校として残していきたいということですが、農業については3校のうち1校、工業科については6校ありますから、そのうち最低1校は、ということを示しているわけです。農業や工業など、専門科目などについて実社会で役立つような構成にして、充実させていくのが拠点校の考え方です。

それに対して総合産業高校というのは、例えば農業、工業、商業などの複数の学科がひとつの学校の中に入ってくるわけです。入学してくる生徒は、どれかを選んで入ってくるわけですが、その中で他の専門教科や普通教科を比較的自由に選択できるコース設定をします。例えば、工業で入ったけれど進学しなくなった、志望大学はもう少し英語とか数学を勉強しなければならないということであれば、そういう科目を選択していく。モラトリアムな状態というか、確固たる信念を持たずに入学する生徒さんが多い中で、若干猶予期間を認めて、高校3年間の中で自己を見つめ直して進路を十分考えていただくというようにしていきたいということでもあります。

北出会長

平成35年には、今よりかなり子どもの数が少なくなるということですが、私の子どもの世代が該当することになると思いながら話を聞いていました。

特に職業系の在り方ということで説明があり、今後の再編等において、拠点校を1つ作り、残りは総合産業高校に再編するとおっしゃいました。ここには坂井地区の方しか集まっていませんが、例えば農業系学科で言うと坂井農業、福井農林、若狭東にあるということでありまして、地域的にどれを拠点校にするか、考え方はいろいろあると思えます。

どの分野においても、拠点校というのは、実家が農業あるいは工業系の事業を営んでいるような場合に進むべき高校というような意味合いで捉えればよいのか、また、総合産業高校というのは、学習の中の過程でいろいろな選択をできるようにして、進路を見出すためのきっかけとなればということを目ざしているとしたら、そのような考え方でよろしいのでしょうか。

広部教育長

なぜ総合産業高校という考え方になるかということ、これは全国的な傾向であり

ますが、一般に、職業系の高等学校へ入ってくる生徒たちの職業意識や進路意識などが非常に希薄になっています。また、これも全県的に言えるのですが、途中退学が多くなってきている。高等学校へ入った生徒たちがより良い高校教育を受けるにはどうしたらよいか。これが大きな視点であり、配慮しているわけです。高等学校へ入る生徒が一番よい環境で学ぶにはどうしたらよいかを突き詰めたひとつの結論であります。

北出会長

いくつも高校がある中で、同じような分野を学習する学校が各地域にあると思います。再編統合された場合に、拠点校を作って、残りは総合産業高校ということで、どの高校でも農業分野だったら農業のこと、工業系だったら工業のことを学ぶといったように、同じことは学べなくなることになるのでしょうか。

松田企画幹

拠点校と総合産業高校との違いですが、拠点校というのは、最初から農業一本でやりたい、工業一本でやりたいという、はっきりした意志がある生徒さんに学んでもらう学校に位置付けております。

一方で課題がありまして、職業系高校に入った生徒たちが途中退学や転校をしたり、本来職業系高校が目指す目標を十分に果たしていない現状があります。ミスマッチも起きており、それらをどうしたらよいか。農業あるいは工業一本でやりたいという意識があまり強くない生徒たちが多くいるのも事実です。そうであれば、一旦、転科ができるようなところに入っていていただいて、工業をやりたいのであればストレートに工業の専門科目の学習をやれば、拠点校の工業高校と同じ資格なりカリキュラムを経て卒業することができ、また入学後、進学してみたい、あるいは農業をやってみたいといった場合に転科ができるようなフレキシビリティを持った総合産業高校を設置することによって、ミスマッチを少しでも少なくして、現在の課題を少しでも解決することができればと思っています。

総合産業高校に入ったら専門学科の勉強ができないわけではありません。拠点校には、専門意識を強く持った生徒に来てもらうという意味であり、どの地域に何を作っていくということは次の問題です。

北出会長

そうしますと、再編した場合に、今各高校にある学科、職業系の学科がなくなってしまうということも選択肢としてはあるということでしょうか。

金津高校には商業科がございます。再編で商業科がなくなるという選択肢もある、金津高校の商業科が総合産業高校の中に統合される場合もあれば、商業科自体がなくなるということがあり得るということでしょうか。

広部教育長

今は、皆さんの御意見等を伺いながら検討していく段階です。金津なら商業科、三国なら家政科の進路状況、生徒の意識等を踏まえて、必要であれば総合産業高校として、より充実していくという手段もあります。それはこれから検討していく課題です。

金井理事長

私は高問協の委員でもございましたので、あまり無責任な発言もできないわけですが、本日説明を再度聞かせていただき、坂井地区の再編統合をどのようにするかということを考えますと、現在県立高校だけの議論に終始されているわけですが、現実には、坂井地区に隣接する福井市には、全日制4校、定時制1校の私立高校がございます。県内私立高校のうち5校が福井市内に集中しているという現状がございます。

高問協の折にも申し上げましたが、県立高校の統廃合をはじめとする再編計画を進行する上で、私立高校の存在ということも当然議論として上がってこなければ

ばならないと思います。統廃合＝スクラップ・アンド・ビルドなのか、あるいはスクラップしっぱなしなのかということになるわけですが、学科や学校のスクラップ・アンド・ビルドは、私立学校においては、当然のように、毎年のように行われていることですので、こういった面でも私学の現状をもう少し御覧になられたほうがよいのではないかと思います。

それから、これは企業経営ということに直結するかも知れませんが、学校経営、学級経営という言葉がありますように、統廃合の裏には、将来、20年、30年後、あるいは半世紀、1世紀後に、学校をどのように経営していくかということを考えなければならないと思います。中長期的に、将来の学校を運営していくに当たっての収支はどのようにお考えなのか。税収と合わせて支出ということも考えないと、ただ闇雲に学校をなくして総合産業高校を作るだとか、あるいは拠点校を作るという議論ばかりでは、長期的な展望と言えないのではないのかと思います。

もうひとつは、資料2の県立高校再編整備計画でございますが、今までに何度か手元に届けていただきまして、十分私自身も隅から隅まで読んだつもりでございますけれども、この中では「作る」話が非常に表に出てきている。作る話をしていけないと統廃合に持っていけないのかもしれませんが、おいしい話ばかりだけではなく、計画の中で、もう少し厳しい現状を示していくべきではないかと思えます。

国影専務理事

農協の立場としては、営農へ益々力を入れていきたいと思っておりますので、今お話のあった拠点校に非常に期待するところでございます。ただ一点、お願いしたいことは、生徒の入学時の思いと卒業時の思い、先ほどから挫折した生徒、退学した生徒の話が出ていましたが、そうした生徒を救う方策を具体的に入れてほしい。入学から卒業まで、3年間の心の変遷をきっちりと追いかけて、極力挫折する生徒をなくしていただきたい。そのような分析、動向調査が必要ではないかと強く感じております。

前田組合長

県の教育の在り方を根本的に考え直してほしいと思います。県立高校は地域に根ざした学校です。高問協から話があったからといって、それを踏まえて統合しようかというのはどうか。全国的に農家がだめになったのは、結局、良い人材を集中して中央に集めたからだと思えます。福井県も学校が福井市に集中して行って、地域から福井市へ行く。学校の校長先生方は一所懸命やっていますが、結局福井の方へ生徒がたくさん行く。

子どもが少なくなりますから統合は仕方がないと思いますが、ひとつ学区制のことも念頭に入れておいて欲しいと思います。例えば、農業系高校は福井農林と坂井農業です。今、坂井農業の生徒が少ないから、福井農林へ来いというのでは、少しおかしいのではないか。農業を一所懸命やる人は、坂井農業へ来いというような、行政の面の指導を教育の現場でやってほしい。人づくりは百年の大計だろうと思います。

子どもが少なくなりますから、統廃合は仕方ありません。学校をいくつも置いておくというのは問題があるかと思いますが、地域に根ざした学校づくりをしてほしいと思います。日本がここまで発展したのも、地方の力を中央に集めたからだと思えますが、農業教育を大切にしたいと思えます。

下迫前会長

ひとつお尋ねします。今年の2月、新聞紙上で奥越の高校の再編統合を知りました。高P連の会合があったときに、奥越の会長をはじめ、皆さん知らなかったということで、寝耳に水のような話だったのですが、あれは、突然発表したので

すか。

広部教育長 そうではありません。いろいろ地元に入りまして説明をさせていただきました。

下迫前会長 皆さん知らなかったということで、先ほどの会合においても、来ておられた教育委員会の方がちょっと責められたようなことがありました。それを踏まえて、今日のような懇談会を開かれたのでしょうか。

広部教育長 そうではありません。ただ、奥越につきましては、今年も大野高校の定員が22名減りまして、生徒数の減少など、これ以上放置できないような状況になっております。急いだのは間違いございません。ただ、奥越地区を県下の再編整備のモデルにしたいということで、高校ごとに、PTA、同窓会の皆さんにもお集まりいただき、何回も話し合いを行っております。

下迫前会長 親としての意見を言いますと、子どもが安心して学校に通えることと、学校へのアクセスが重要だと思います。どうやって通学するのか、部活で遅くなるときにちゃんと帰って来られるのかなど心配であり、PTAの各保護者から学校に対して要望が出されたこともあります

統合されるのは、時代の流れで仕方ありませんが、是非、アクセスを考慮してほしい。特に春江工業は、JRの駅も近くにありすし、越前鉄道もある、北陸縦貫道もある。また、商業圏で非常に発展もしている。春江は非常にいいところなので、お考えいただきたいと思っています。

私の子どもも、最初は進学ということあまり考えてなくて、工業系の高校に行ったのですが、2年生3年生になる頃から、大学に行きたいということになり、入れる学校を探して頑張れということで工業大学に行かせていただいたわけです。普通高校ではできない、また普通高校では考えられなかったようなことを工業高校では色々勉強したようです。工業高校は、「ものづくりを以って人づくりを成す」という精神も持っておりますので、なくさないようによろしくお願ひしたいと思っています。

小木会長 昨年から会長を務めさせていただいております。再編問題は、高P連の理事を務めているときから話がありました。

親の立場から言わせていただきますと、現在、農業高校学校へ行きますと、本当にミスマッチといえますか、農業系の就職を希望する子がほとんどいないのが現状です。しかし今、農業や食については、安心・安全が求められています。自給自足の問題もあります。やはりこうした勉強は非常に大切なことではないかと思えます。また、この総合産業高校については、子どもたちの通学を考えますと、アクセス面が一番心配なところです。

現在、農業従事者の方は、大型化などを行っています。確かに就職口は少ないかもしれませんが、例えば農業に就いたとしても、大型機械の分野など、いろんなことを勉強しないとイケないような現状があります。農業だから農業へ就職ということではなく、幅広く考えていただく必要があると思えます。

また、資格の取得などに力を入れていただくと就職率も高まるし企業の求める人材もたくさん輩出されるのではないかと考えています。

西会長 先ほど御意見もありましたが、どうしても福井市へ集中ということが気になります。県の教育行政の立場として、福井市内の県立高校の定数の見直し、削減の

方の見直しはあるのでしょうか。また、当然、坂井地区においても魅力ある学校づくりをしていただきたいと思います。

福井県は、暮らしやすさにおいては、全国的にも上位にあります。坂井市やあわら市に、新たな住民が移り住んで来られるような、そういった行政面の支援も考えて、官民一体となって、10年、20年後には、坂井地区が子どもたちの笑顔、歓声であふれる明るい地域づくりをしていただきたいと思います。

辻村副会長

私が日頃感じていることは、中学から高校への進学については、子ども自身のやりたいことというより、学力に基づいて決められるのが現状であることです。あなたは頭がいいから、いい高校へ行きなさい、あなたはこのくらいだからこの高校でいいでしょう、そんな図式ができてしまっていて、そのことが、専門学科を志した割には全然学力が付いていないということにつながってくるのだと思います。学力ではなく、子どもの本当にやりたいことに基づいて進路を決められるような体制をとっていただけたらよいと思います。

それから最近、やりたいことが全然見つけられない、働く意欲がない、そういう意識の子どもが多くなっているような気がします。親にも責任がありますが、教育界でも、なんとか子どものやる気や意欲を出させる、そうした意識改革をしていただくような体制を考えていただければと思います。

現実的な問題としては、交通の便、アクセスです。具体的に言うと、丸岡から他の高校に行こうとすると、大変不便です。乗り継ぎが多く、どこへ行くにも不便なので、統合に当たっては、アクセス面について一考いただけたらと思います。

嶋崎会長

総合産業高校は魅力的に感じます。高校でも、大学進学の際には将来のビジョンを明確にして選択しなさいとよくいわれますが、自分のことを振り返っても、高校時代に将来の姿、ビジョンを描くことは、なかなか厳しいと思います。まして、中学の段階であなたの将来を決めなさいというのは難しいと思います。専門高校でギャップが出ているとか、入ってから思いと違ったということがあるのは当然であると思います。

総合産業高校に一旦入って、1年か1年半の間に、進学したいという子もいるだろうし、工業系の専門知識を身に付けて働きたい、そうしたいろんな希望があると思います。そういう希望に対応するには、これしか方法がないのではないかと気がしています。

総合産業高校は、学力的にも幅広い生徒さんを受け入れる高校になると思うので、非常に運営は難しいかと思いますが、なんとかここに力を入れて新しい教育の形を作っていただきたいと思います。

野田理事

専門的なことはわかりませんが、資料が事前に配布されていたら、もう少し分析をして会議に来ることができ、再編整備の基本的方針もなるほどと納得ができたと思います。

素人ですので、分析等について力量はありませんが、皆様のいろんな話を聞いておきますと、職業系高校が世の中のニーズに合わないという意見がたくさん出ておりました。私は、これは教育の怠慢ではなかったのかと思っています。ニーズに合うように、きちんと改革をして授業の内容を変えていけばよかったですと思っています。

学力によって高校の選択が行われていることについて、私は市民の一人として切実に考えております。世の中の流れや、生徒が少なくなるとか、色々説明がございました。再編も仕方がないのかと思っていますが、再編が進むと、学力が下の生徒は、どこで受け入れる状況になるのでしょうか。普通高校においては、

学力レベルの低下につながることも考えられますし、坂井地区の生徒が福井市の方に流れるということもあります。

丸岡中学校の卒業生が丸岡高校に行くのが80%ぐらいになるとのことですが、それが果たして人間形成に役立っているのでしょうか。福井市に出かけて、いろんな所で一緒に勉学に励むことにより、世の中に出たとき、よい人間関係がたくさん持てるという良い点もあり、ただ福井市へ流れるのが問題ではないと考えています。

また、職業系の学校が統廃合されていきますと、定員数は現状を確保するのか、統廃合になると定員数が減ることになるのでしょうか。

丸子会長

先ほど教育長から職業系専門学校の再編整備ということでお話を伺いましたが、商工会の関係者として意見を申し上げます。

時代の流れで職業系の高校進学者が減少しています。地元の企業が一番望むことは、技術者などの人材を育成するその学科や高校を大事にして、残して欲しいということです。

また、進学率が高まっている一方で、4割近くが就職を考えております。普通科の中でも職業意識を持たせる教育をしていただきたいと思っております。我々の高校時代のことを考えて見ますと、普通科のみ的高校より、普通科以外の職業教育をする学科が共存するほうが好ましいと思われまます。また、高校の卒業生を受け入れる企業の現場としましても、その方が喜ばしいのではないかと思います。

また、極端な意見ですが、これだけ少子化、景気の不安定が続く中で、進路が決まった時点で、就職希望者を対象として、自分が望む企業精神を学ぶ高校へ転校する対策を考えてはどうかと思います。

笠島会長

産業界としては、学校で知識とか技術を習って即戦力で入社をしてきて欲しいという希望があるわけです。会社で支障なく仕事ができるための知識、技能、行動様式を身に付けて入ってきていただきたい。企業も、組織として教育をするわけですが、このグローバルな競争経済の中で、企業の中には社員の基礎教育をする余裕がないわけです。ですから、是非、基本的な部分を公教育の中でしっかりとやっていただけたら大変ありがたいと思います。

また、当然ながら、基礎知識・技能の習得を十分にして、希望の仕事に就けるように指導をお願いしたいと思います。人柄が一番大切ですが、どういう資格を持っているかということ非常に重要視するわけです。資格取得の奨励をしていただきたいと思っております。

ミスマッチ云々といわれていますが、社会が求め、時代が要請する学科、分野にシフトをしなければならないのではないかと思います。今日の資料を見ますと、職業系学科の中で300名程度の方が卒業するわけですが、140名、47～48%になるのでしょうか、進学をするわけです。モラトリアムの中学から高校に入る時に、自分の希望をしっかり選択できないということがあったと思います。恐らく、総合産業高校を作るとしても、同様に半分ぐらいが進学をしていくのだろうと予測します。新しい産業系の学科の設置についても、学校で生徒の希望がどういうところにあるかということ把握しながら対応していただきたいと思います。

先ほどからお聞きしていると、拠点校を福井市内に一極集中するような気がしますが、果たしてそれでよいのかという問題もあると思います。拠点校を県内に農・工・商、各1校を設置するということだろうと思います。また総合産業高校、これは坂井地区に具体的に1校を設置するのか、それともその他の方

法があるのかどうか。具体的な再編の案をお聞かせ願えたらありがたいと思います。それから、今後、坂井地区において懇談会開催を再度予定されているかどうかもお聞きしたいと思います。

坂本市長

行政を預かっているものとして参加させていただきました。教育長、課長、企画幹の考え方は尤もだと思います。また、坂井地区の各高校を預かっている校長先生、教頭先生をはじめ、先生方には特色ある高校教育に取り組んでいただいていることに敬意を表したいと思います。

高校をなくすとか、再編しようというのはなかなか難しいものがあるわけですが、少子化や時代の流れも非常に速く進んでいます。そういった中で今後どうしていくのか。滋賀県と福井県だけが再編が進んでいないということですが、行政を預かる者として、再編の必要性は当然であるとは考えております。

今日だけではなく、まず関係者、保護者の方々の意見を十分尊重しながら、まずは、子どものために教育を真剣に考えていかなければならないと思います。

先ほどから専門学科の話がされています。もちろん就職は大事だと思いますが、一番大事なものは、人間づくりではないか、それがこれからの時代には必要ではないかと思っています。

昔と今の高校生では、考え方も随分変わっています。失礼かもしれませんが、今の高校生の親御さんの考え方も全然違います。それも行政として考えていきながら、再編問題に取り組んでいくことが重要かと思っています。

また、今日は県立高校の問題を議論しておりますが、行政として、私立高校はどうするのかということも必要ではないかと思っています。県の立場としては県立高校の問題が重要かもしれませんが、子どものためですから、やはり私立をどうするのかということも、十分、行政の役割として、平行して進めていくべきかと思っています。

今日は皆さんからいろんな御意見をいただきまして、行政を預かる者として、勉強もさせていただきましたし、参考にもなりました。お礼を申し上げたいと思います。

橋本市長

今日の懇談会の位置付けは、どう考えたらよろしいのでしょうか。

広部教育長

3月に再編整備計画を作りましたが、これは漠然としたものです。奥越地区については実施計画ということで、具体的に進めております。各高等学校、PTA、同窓会が、何回も学校ごとに個別に集まり、いろいろ議論しております。

奥越地区に続くのが、坂井地区と嶺南地区です。その両地区についてこれから実施計画を作っていく必要があるわけですが、作る前に、やはり地元の大きな課題でもありますので、各界・各層の皆さん方の御意見、考え方を伺いしてからまとめていきたいと考えています。

今後につきましては、今回お伺いした御意見や、これからも御意見等をお伺いしながら、案を作って、必要に応じて、皆さん方の御意見を伺っていきたくて考えております。

橋本市長

職業系の学科が問題になっているということは分かりましたし、いろんな説明、資料も拝見しましたので、問題点もわかります。生徒数の減少とか、志望者数の減少等があって、学校そのものの存立の危機があるというのも良く分かります。ミスマッチの話もありました。産業界、社会が求めているような人材に十分育っていないのではないかと、それをクリアするために新たな制度で再度やり直したらよいのではということも概ね理解はできました。

あわら市のことを申し上げさせていただきますと、今挙げられたいくつかの懸念材料といいますか、変革をしなければならない理由が当てはまらない職業系の学科もあるように思います。生徒数も減っていない、志望者数も多い。しかもレベルも高い学校があります。資料を見る限りは、普通科とともにあることによってお互いが刺激をし合って相乗効果が出ていると類推されるようなところがあるわけで、これらも職業系の再編の中に入れなければならないのかどうか、その根拠というものを十分考えていただきたい。そのことを地元の市長としては見守らせていただきたいと思います。

広部教育長

ありがとうございました。予定時間をオーバーしまして申し訳ございません。本日はいろんな御意見を伺いました。あわら市長さんもおっしゃいましたが、普通科と商業科、また家政科が並存しているところも県内にはあるわけですが、一長一短がございまして、普通科だけでやった方が力が伸びるのではないかという意見もあり、また、今おっしゃったように、むしろ今のままの方が良いのではないかという意見もあります。学校ごとの特色を見ながら、今後判断していきたいと考えております。今日はいろんな御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。参考にさせていただきます。とにかく、視点は、高校生たちがより良い環境でより良い高校教育を受けるにはどうしたらよいかということでございますので、今後、我々もさらに議論を深めてまいります。どうかよろしくお願いします。今日は誠にありがとうございました。

○ 閉 会

教育政策課長

どうもありがとうございます。今後、こういう懇談会を今年度中にもう一回程度開きたいと思っております。今回の議論につきましては、事務局で整理したものを教育政策課のホームページに掲載したいと考えております。また、本日の御意見を踏まえまして、県立高校の魅力ある在り方について、更に幅広く御意見をいただきたいと考えております。どうもありがとうございました。

- 以 上 -